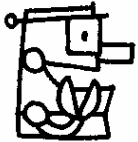


小 / 理科 / 6年 / 生物と環境 /
人と動物の体 / 理解シート

気体検知管のメモリの読み方を、教えて



検知管の中の、変化した色の先頭の部分のメモリを読めばいいのさ。単位はパーセント(%)さ。

気体検知管は、検知管と気体採取器きたいさいしゆきからできている

実験で使う気体検知管は、気体50ミリリットルの中に、二酸化炭素などの気体がどれくらいふくまれているかを、温度計のように、色棒とメモリで見ることができるものです。

気体検知管は、あらかじめ、検査する気体と化学変化を起こして、色が変わる薬品をつめてあるガラスの検知管と、調べる気体を集める気体採取器からできています。気体採取器は、水でっぽうと同じしくみで、つつの中のハンドルを引くと、つつの先から、一定量(50ミリリットル)の気体をすいこみます。

すいこんだ気体で、色が変化した先頭のメモリを読む

気体採取器のすい口のところに、検知管の両はしをおりとったものを取りつけ、ポリぶくろなどに集めた、検査する気体をすいこみます。すいこまれた気体の中の二酸化炭素などが、検知管の中の薬品と化学変化を起こして、すいこみ口のほうから色が変化してきます。その色の先頭のメモリを読めばいいのです。

検知管は、いろいろな種類があり、目的によって、酸素用(6~24%)、二酸化炭素用(0.03~1.0%、0.5~8.0%)などの中から選んで使います。

<気体検知管>

